

3
年
国
語
①

授業の約束

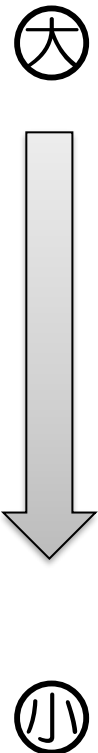
・書いてある内容をじっくり考えるときや、問題を考えるときは、一時停止マークをクリックし、内容を理解したり、問題を解いたりしてから、次の画像に進もう。

・最後のまとめの部分は、国語のノートに写しておこう。(黒板に書いたもの)

「言葉の単位」について復習しましょう。

() 一年生の内容です。覚えていらっしゃるかな?)

※言葉の単位は、全部で五つあります。次の ()
にはどんな言葉が入るか考えてみましょう。



文章 ↓ () ① () ↓ 文 ↓ () ② () ↓ 単語

ヒント

*①は、細かく分けるといくつかのものがあり、「内容で分けるもの」と、「形式で分けるもの」とがあります。

*②は、その単位で区切る「ネ」「サ」「ヨ」等を
つけて考えるところからやってみよう。

例えば、() にはどんな言葉が入るでしょう。

答えは……

文章 ↓ (**段落**) ↓ 文 ↓ (**文節**) ↓ 単語

…となります。できましたか？

ネサヨをつけて考える

文章 ↓ 段落 ↓ 文 ↓ 文節 ↓ 単語

物語

意味段落…内容

句点「。」

俳句

形式段落…マス

疑問符「？」

詩など

下がる

感嘆符「！」

今までの内容をまよめます。

※「文章」は、言葉の単位でいちばん大きなまとまりを言います。

「小説」「手紙」「説明文」なども一つの文章です。

※「段落」の種類の一つ「意味段落」は、内容ごとに分ける段落なのでまとまりが大きく、「大段落」とも言います。

「形式段落」は文章の頭の文字が「マス下がったところで分ける段落なので、「小段落」とも言います。

※「文」は、「。」(句点で分けた単位ですが、それだけでなく、「?」「!」【疑問符】や「!」(感嘆符)でも、一文として分けて考えます。

※「文節」は、竹の節のように、文を意味が通じる程度に分けたものを言います。分けたところに、「ネ」「サ」「ヨ」を入れて考えます。

※「単語」はいちばん小さな言葉の単位で、これ以上切るじょうができません。

それでは問題を解いてみましょう。

1 次の文章の、①段落の数、②文の数はいくつになるでしょう。



①「こういつ時の「段落」というのは、たいてい「形式段落」を指します。

②「文」「は、」。「。」の数と一緒にですね。

①段落の数は（ ）

②文の数は（ ）

外出ができないこの時期、毎朝のラジオ体操を心がけている。

小学生の頃の夏休み、公民館前の広場へ、ラジオ体操に通った。出席確認のハンコが埋まるのを楽しんでいたことを思い出す。

30代前半、福岡県主催の「青年の船」事業に参加し、11日間の日程で中国・広州や香港を訪問した。毎朝、船のデッキに集合。皆の体調を確認し、その日の行動を打ち合わせたり連絡事項を聞いたりする。その後、潮風を受けながらラジオ体操をした。

ほぼその時以来のことになる。久しぶりでも身体は覚えており、あまり戸惑いなくやれた。真剣にやるとけっこう身体に効いているのが分かった。

早起きして決まった時間に身体を動かせば気分も爽快。しかも手軽にできる。自分の身体がどう変わっていくのか楽しみだ。これを機に続けよう。

(「朝日新聞」四月十九日「声」より)

答えは……

①段落の数は（ 5 ）

②文の数は（ 14 ） となります。

*次は、文節の問題です。

2 次の各文を例にならって文節に分けましょう。

例 バラの／花が／咲く。

①ラジオ体操に通った。

②毎朝、船のデッキに集合。

ここからは難問！正解なるか！！

③けっこう身体に効いているのが分かった。

④自分の身体がどう変わっていくのか楽しみだ。

答えは……

①ラジオ体操に／通った。

②毎朝、／船の／デッキに／集合。

③けっこう／身体に／効いて／いるのが／分かった。

④自分の／身体が／どう／変わって／いくのか／楽しみだ。

……となります。③④には、補助の關係の文節がありません。

波線の部分です。これについては、また後で詳しく解説します。

*さて、最後は単語分けの問題です。

3 次の各文を例にならって、単語に分けましよう。

例 ぼくーはー野球ーをーする。

① しかも手軽にできる。

② これを機に続けよう。

これは超難問！正解したらすごい！！

③ 出席確認のハンコが埋まるのを楽しんでいたことを思い出す。

答えは……

①しかも「手軽に」できる。

②これ「を」機「に」続け「よう」。

③出席確認「の」ハンコ「が」埋まる「の」を

「楽しんで」「い」「た」「こと」を「思い出す」。

……となります。

①の「手軽に」は「手軽」と「に」で分けなさいよ。

これは、「手軽だ」という「形容動詞」です。「手軽な」と活用できるのでも、「名詞＋助動詞」ではありません。受験でよく出る、間違いやすい問題です。

②は、つい「続けよう」を「単語に数えてしまいがちです」。「続けよう」は「続く」(動詞)＋「よう」

(助動詞)の「単語」です。

③は超難問中の難問です。「出席確認」は「一つの単語」です。「中学校」を「中」と「学校」に分けないのと同じです。同じく、「思う出す」「思う」と「出す」に分けないこと。意味が違ってしまいます。そして用言に付く付属語の理解が必要です。

*次のページの内容を国語のノートに写しましょう。

*次回は、「文節」に焦点を絞り、「文の成分」を考
えていきます。

*今回の範囲は、「文法ノート」のP4～P11の内
容です。復習しておきましょう。

「言葉の単位」

文章 ↓ 段落 ↓ 文 ↓ 文節 ↓ 単語

※ 「文章」は、言葉の単位で**いちばん大きなまとまり**を言う。「小説」「手紙」「説明文」なども一つの文章。

※ 「段落」の種類の一つ「**意味段落**」は、内容ごとに分ける段落なので**まとまりが大きく**、「大段落」とも言う。「**形式段落**」は文章の頭の文字が「マス下がったところ」で分ける段落なので、「小段落」とも言う。

※ 「文」は、「。」(句点)で分けた**単位**だが、それだけでなく、「？」【疑問符】や「！」(感嘆符)でも、一文として分けて考える。

※ 「文節」は、竹の節のように、**文の意味が通じる**程度に分けたものを言う。分けたところに、「ネ」「サ」「ヨ」を入れて考える。

※ 「単語」は**いちばん小さな言葉の単位**で、これ以上切る**ことができない**。